

●●●情報化委員会 報告書

	産	業	連	携	と
I	T	の	活	用	に
	関	す	る	報	告

INFORMATION TECHNOLOGY

平成16年5月

社団法人 岡山経済同友会

はじめに

SILICON CROSSING (シリコン クロッシング) の提唱

現代は、ゆったりと流れる時間と、ひたすら加速して流れる時間、たとえば文化性と文明性の対比のようなそれぞれ異なる時間の感覚を併せ持つ時代である。岡山はこの二面性が顕著に存在する地域であり、人の流れ、ものの流れはこの二面性が故に時として全く異なる次元で動き、あるいは二面性を併せ持って動く。

悠久の歴史的史跡を探訪する観光資源に代表される過去を遡るゆったり流れる時間が存在する半面、今後、岡山で育成すべき新産業分野はひたすら加速して流れる時間に晒されている分野が多く、スピードを緩めることはない。スピード競争で勝利するためには時間の先取りをすることしか方法は無く、時間を先取りするためには「知」を集積する他に手は無い。そのためには集積できる「場」を作り出す必要がある。「場」は実際に「知」を有する人が複数で会い研究やビジネスを推進する「物理的な場」と、インターネット等を通じて仮想的に会えば事が足りる「仮想的な場」の両面を併せ持つ必要がある。

岡山は鉄道網の結節点であるばかりか、東西南北の高速道路の結節点でもある。また都心から比較的近い飛行場は拡張される方向にあり中国、韓国をも視野に入れて「知」が集うに適した「物理的な場」を提供している。一方で、複数の人が会わなければいけない物理的な理由は便利な場所であれば事が足りるため、実際に岡山において「知」の集積が見られなければ、他の地域との比較で単に「会う」場所という利便性だけを競うことになり、確固たる「場」としての地位は危うい。この為に異業種交流、産学官連携、TLO (技術移転機関)、クラスター構想等の様々な試みが成されて来ているが、他地域に比して際立った特長がある訳ではなく、極端に言えば他のどの地域とも同じで、「会う」ための場所なら東京があれば事が足りるのが現実であろう。

従って、「知」を集積するためには「物理的な場」とともに「仮想的な場」についても岡山が結節点でなければならない。幸いなことに岡山は他地域に比してデジタルインフラが整備されており、とくにハード面では優位性が高いと評価されている。加えて、その上を走るコンテンツとして「知」が集う「仮想的な場」を中四国、九州地域の産学官に向けて発信し運営することができれば将来の道州制における技術的な「場」の中心地としての地位を築くための一つの足がかりになり得る。また、今後のIPV6 (インターネット・プロトコル6版) への環境を考慮すれば、あまりの情報の氾濫でネット上の情報がchaos (カオス) 化する可能性もあり、整理された情報、データが必要になってくると考える。

この「仮想的な場」を称して「SILICON CROSSING」(シリコン クロッシング) とし、重厚長大型産業から軽薄短小型産業、研究機関、学校等が幅広く点在し知財を蓄積している瀬戸内海沿岸を核とする西日本地域をターゲットとして、異業種、産学官、ニュービジネス、オールドビジネスを問わず、自由にニーズ、シーズがマッチングできる知的プラットフォームを創造し、結果的に岡山を「人が集う知の結節点」とすることを提案したい。

平成16年5月

社団法人 岡山経済同友会

代表幹事 武田 修一

代表幹事 永島 旭

情報化委員長 松田 久

目次

index

1. 問題の所在	1
2. 企業ニーズに関するアンケート調査	3
2.1 アンケート調査の背景	
2.2 調査結果および考察	
2.2.1 調査対象と回収	
2.2.2 経営上の問題と産学、地域間連携について	
2.2.3 新規事業と既存事業について	
2.2.4 新規・成長分野の育成型態について	
3. 情報交流と「産・産」連携のあるべき姿.....	14
資料（1）情報化委員会の活動状況	16
資料（2）アンケートの依頼文および質問票	19
情報化委員会名簿	26
